



教育センターだより

高岡市教育センター
令和7年3月5日



よく見る、よく聞く

高岡市小学校長会 会長 山口 ひろみ

「鉢回し」という言葉を耳にされたことがあるでしょうか。菊づくりの作業の一つだそうで、以前、総合的な学習の時間で菊づくりに取り組んだ際、地域の名人から教わった言葉です。鉢植えの菊がある程度育ってきた段階で、鉢の向きを数日ごとに変え、満遍なく日を当てていく作業のことです。子供たちの鉢回しを補助しつつ菊を見るうちに、なるほどと思いました。菊の前面だけを見ていたときには気付かなかった、側面や背面部分がよく見え、様々な発見がありました。「いろいろな角度から見ること、そして、どの面にも光を当てていくことが大切」という菊づくりの秘訣は、教師が子供たちを見るときに構えに通じるものがあると感じました。

新採時、初任指導の先生から「よく見ること、よく聞くことが児童理解の基本」と繰り返し指導を受けました。「子供たちが騒がしいとき、怒ることは、こちらが顔を上げたり、振り返ったりしなくてもできます。しかし、正しく叱り、指導することは、子供ときちんと向き合い、よく見て、よく話を聞かないとできないことです。ほめることも、よく見ていなければよさに気付かせません。」と教えていただきました。

先生方は、授業中、子供たちの様子を見るために教室の後方や横に移動して見渡したり、しゃがんで子供の目線まで下りて見たりするなど、様々な工夫しておられることと思います。その際、たとえ些細なことでも、頑張っているところやよさ

を見付け、子供に伝えてフィードバックしようとする目で見ることが肝心だと思います。人間は、心理学の世界で言われる「ゲシュタルトの円」の例にあるように、完全なものより、不完全なものが気になってしまう特性があるそうです。円の欠けているところ、つまり、長所より短所、足りない部分ばかりに意識が向きがちであるということです。よいところやできているところが大半なのに、小さな欠けばかり目に入ってしまう、という人間の癖を知っておくことで、子供への接し方も変わってくるのではないかと思います。そもそも欠けている部分がない人など存在しませんし、欠けている部分こそ個性なのかもしれません。

話の聞き方についても、先輩方からたくさん教えていただきました。

- ① 先入観をもち、口を挟まず、まず聞き手に徹する。
- ② 優しい相づちを入れ、話しやすいよう聞く。
- ③ 気持ちや感情も語らせ、子供の言葉を繰り返して受け止めながら聞く。
- ④ 指導後は次の行動を子供が決めるように聞いてやり、励ます。
- ⑤ 最後は今の気持ちを語らせ、話し足りないことがないか聞く。

私たち教師は、見る目、聞く耳を日々磨いていくことが大切です。そして、自己肯定感を基に人との信頼関係を築き、自ら成長していこうとする子供たちを育てていきたいものです。

教職員研修紹介 ～高岡市初任者研修会～

◇第1回 5月23日(木) 戸出コミュニティセンター

教育長講話 「教師として歩み始められた皆さんへ」

講師：高岡市教育委員会 教育長 近藤 智久 先生

初任者教員15名に向けて、近藤教育長よりご講話をいただきました。

教育長ご自身の豊富なご経験をもとに「教育を通して自己実現を図ること」

「よりどころとなる教育資料や参考書籍の大切さ」「子供の成長を感じ共に成長する魅力ある職業であること」等のお話から、受講者は教師としての心構えや心に留めておきたいことを学びました。

<感想より>

- ・教員としての目指すべき姿を学ぶとともに、先輩教員から技術や授業を見て学ぶことが大切だと思いました。今後は、学んだことを活かして、教員としての資質・能力を高めていきたいです。
- ・学習の主体者は子供であることを念頭において指導をすること、知恵は人の頭の中にあるため、周りの人とコミュニケーションを積極的にとり、知恵をお借りすることが大切であると分かりました。



◇第2回 8月23日(金) 戸出コミュニティセンター



講話等 「よりよい学級集団をつくるために」

講師：高岡市教育センター所長 高松 毅 先生

アドバイザー：高岡市教科指導員



受講者の笑みがこぼれる場面もある中で、高松所長ご自身の初任の頃のお話や「教師は授業が命」、「安心できる居場所をつくる教師の役割」等、熱いメッセージが受講者への大きなエールとなりました。2学期を目前に控え、期待することや楽しみなこと、不安なことや心配なことについても話し合い、教科指導員からアドバイスをいただきました。

<感想より>

- ・教員に求められていることは「分かる・できる授業」「安心できる居場所をつくること」であることを学びました。「安心できる居場所づくりには正義の通る学級であること」に心動かされました。
- ・特に印象に残っているのは「生徒は教師を選べない」という言葉です。分からない授業や面白くない授業をするのではなく、日々教材研究に励み、常に改善していこうと思いました。

◇第3回 11月28日(木) 戸出コミュニティセンター

講話等 「生徒指導のすすめ」

講師：高岡市立伏木中学校 校長 堀井 祥照 先生

初任者にとって切実な悩みである生徒指導について、堀井校長先生からご講話

をいただきました。堀井校長先生がこれまで生徒指導で大切されてきたことや生徒指導が目指すところ等についてお聞きしました。具体的な場面から子供にどのような言葉かけをしたらよいかを考える場もあり、人間的な触れ合いの中で生徒指導を行う重要性を学びました。

<感想より>

- ・生徒や保護者との関わりで、言葉の選択を間違えると相手との関係性を悪くするということが分かりました。「丁寧な対応」という言葉を胸に、粘り強く生徒や保護者と関わっていききたいです。
- ・こちらから答えを言うのではなく、相手が応えるのを待つことが大切だということが分かりました。どのような問いかけや対応がよいのかを考えて子供たちと関わっていききたいです。



高岡市での全3回の研修を終えて、受講者からは、「現場での実践を踏まえた講話を興味深く聞かせていただきました」「同期のつながりでいろいろと情報交換する中で、また頑張ろうと毎回思いました」という感想が寄せられました。今後も主体的な学びとなり、教育活動への意欲につながる研修を実施していきたいと思ひます。





◇ICT 活用推進委員会の取組より◇



今年度は、2チームに分かれてICTの活用について研究しました。「高岡市小中学校情報活用能力の系統表」活用チームは、令和5年度に作成した系統表をバージョンアップし、授業での活用事例をさらに充実させました。学年やアプリ毎に活用例を整理することで、授業や研修での端末を活用した授業を調べやすいように工夫しました。「NHK for School」活用チームは、NHK for Schoolのサイトにある動画や資料を活用した指導例について研究しています。研究の成果は次年度のICT活用研修会等で周知し、各校で活用できるようにする予定です。

高岡市学習専用端末活用系統表		授業等での学習専用端末活用事例(学年別)		学習専用端末(アプリ)活用事例				
高岡市ICT活用推進委員会		高岡市ICT活用推進委員会		高岡市ICT活用推進委員会				
	活用モデル	学年	教科等	単元名・題材名等	アプリ・ソフト等	操作説明・活用例	活用事例	
	1年	学活	様々な場面	で端末に親しむ手立て	ブラウザ (Edge)	インターネットページを作成	資料や課題の取付	
	算数	かたちあそび	国語	わたしのじどう車を	つくる	アカウントを	共有	
	生活	わたしのあまが	お	あまが	おくくんかいざ	ファイル共有	(ClassNotebook)	
	2年	生活	くひなをし	つかって	農業を	つくりましよう	共有	共有
	算数	かけ算	生活	やさいを	そだてよう	やさいかいざ	共有	共有
	3年	外国語	こん虫を	調べよう	社会	自然災害	からくらしを	守る
	4年	社会	世界に	ほころ	和紙	内容の	要約	外国語
	5年	外国語	お気に入りの	場所を	しよう	かいしよう	国語	国語
	6年	国語	日本文化を	発見しよう	算数	円の面積の	求め方を	考えよう
算数	円の面積の	求め方を	考えよう	家庭	紙立を	考えよう	外国語	
外国語	What sport	do you like?	外国語	ぶりがえりの	記入	理科	ピットレーサーを	走らせよう
体育	跳び箱運動	道徳	ちゃんど	やれよ	健太	音楽	創作×	プログラミング
2年	音楽	創作×	プログラミング	理科	天気と	その	変化	

「高岡市学習専用端末の系統表」(左)や「授業での活用事例」(中央)、「アプリ活用事例」(右)の各項目をクリックすると、詳しい授業実践例やアプリの使い方を見ることができるようになっています。

◇全国学力・学習状況調査分析委員会の取組より◇



今年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、9月の「高岡市立学校学習指導改善研修会」にて、分析結果を報告しました。学力調査の報告では、演習等も交え、目指すべき子供の姿や資質・能力について考え、今後の授業改善に生かせるようにしました。また、学習状況調査の報告では、全国や県との比較から自分の考えをまとめ、表現する場面で学習専用端末の活用を進めてほしいことをお伝えしました。

小・中学校の教員が、それぞれ小学校・中学校両方の分析結果を知ることを通して、小中一貫教育の充実を図りたいと考え、発表内容を吟味・工夫しました。

◇高岡イングリッシュセミナー実行委員会の取組より◇



市内の小・中学生が参加する「高岡イングリッシュセミナー2024」の企画・運営を行いました。小学生と中学生が共に英語に親しみ、「ふるさと高岡」のよさを再発見できるように活動内容を工夫しました。外国語指導助手との話し合いを重ねて実施した外国の文化を体験できるワークショップは好評で、充実した活動になりました。

☆高岡市適応指導教室(きらら子教室)より

心の居場所づくり

高岡市適応指導教室では、子供たちの心の居場所づくりに努めるとともに、主体性や社会性を育むために、様々な活動に取り組んでいます。これまでの活動の改善を図り、新たに始めた取組を紹介します。



◇ 「ポッチャ」「モルック」を楽しむ

体育活動の時間に、ポッチャやモルックを取り入れました。どちらも小学生から大人まで気軽に楽しく取り組むことができる軽スポーツです。どのボールやピンを狙うかなどチーム内で作戦を話し合いながら競技するため、自然と会話が生まれています。また、休憩時にはトランプ等のカードゲームだけでなく、増加する小学生向けに購入したパズルやゲームで交流しています。これらを通して子供たちは、周りの人に受け入れられている安心感をもち、仲間と触れ合う喜びを味わっています。



◇ 校外学習「高岡の歴史と文化のまち探検」

氷見、射水、高岡市適応指導教室の交流活動として、校外学習を企画、実施しました。当日は他市の通級生や引率者も合わせて18名が参加し、山町筋や高岡大仏、駄菓子屋さん、高岡古城公園等で見学や散策を楽しみました。子供たちは仲間と関わりながら元気に活動し、高岡の魅力を再発見することができました。



◇ 栽培活動と調理実習

きらら子教室の畑で育てた野菜を使い、7月には収穫したキュウリやトマト等で、ポテトサラダづくりをし、甘く実った小玉スイカと一緒に美味しくいただきました。

10月にはサツマイモで豚汁を作り、小学校2年生から中学校3年生までの児童生徒が、材料の皮をむく、包丁で切るなど役割分担して楽しく調理に取り組みました。

「育てる・作る・食べる」という活動は、食育にも通じる貴重な体験となっています。



◇ 個別学習ブースの増設

通級する子供たちは多様化しており、周囲の状況に過敏に反応する子供や、集団の中に入ることが困難な子供も多くいます。そこで、周りからの刺激を受けずに安心して過ごせるよう、学習室や多目的スペースに個別学習ブースを設置しました。これらの環境づくりによって、自分の居場所を感じながら、自分のリズムで学習に取り組んでいます。

高岡市適応指導教室(きらら子教室)では、悩みを抱える児童生徒や保護者との相談活動、不登校児童生徒への支援等を行っています。対象児童生徒についての相談は随時受け付けております。(TEL 20-1656)

教育相談の状況 (R6 1月～12月)

少年育成センター(守護町)で行っている「少年なんでも相談」では、医療専門相談員と相談員が、青少年や保護者、教員等の相談に、電話や面談で応じています。令和6年1月～12月までの相談件数は、703件でした。困っている保護者の方がいらっしゃいましたら、先生方からもご紹介ください。保護者からの希望があれば、面談の予約(9:00～16:00)をいたします。

困ったことがあったら、気軽に「少年なんでも相談」TEL(20-1653)に電話してください。



高岡市教育センター

〒933-8601 高岡市広小路7番50号(学校教育課内)

TEL 20-1204

FAX 20-1667

ホームページ

